

岩手県盛岡市（国内 42 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 22 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 30 万羽）

発生家きん舎の構造：ウインドウレス鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：直立 6 段ケージ 6 列、通路 4 本、2 階建て

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、周囲に圃場及び牧草地が多く存在する平地であり、近隣に多くの養鶏農場が存在する。
- ② 当該農場には南側に集卵施設があり、その隣に南から北にかけて 1 号～10 号鶏舎が配置されていた。発生鶏舎は 9 号鶏舎（北から 2 つ目）であった。すべての鶏舎がバーコンベアで集卵施設に接続されていた。
- ③ 衛生管理区域内には鶏舎の他に、事務所、集卵施設が設置されていた。
- ④ 当該農場は、国内 26 例目の農場の東側に隣接しているが、当該農場が高所にあり 10m 程度の高低差があった。また、両農場はそれぞれの排気側で対面していた。
- ⑤ 農場周辺の草地は 20cm 程度の積雪で覆われていた。

3 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎（収容羽数約 3 万羽、通報時 507 日齢、強制換羽後）では平均的な死亡羽数は 3 羽程度／日であったところ、1 月 21 日に 40 羽の死亡が確認されたことから家畜保健衛生所に報告したとのこと。
- ② 死亡鶏は発生鶏舎 1 階の北から 2 列目鶏舎中央部の下から 2～3 段目のケージに固まって認められたとのこと。
- ③ 調査時、発生鶏舎 2 階の北から 1 列目鶏舎中央部の下から 1～2 段目に鶏が固まって死亡していることが確認された。

4 管理人及び従業員

- ① 当該農場の従業員は鶏舎担当が 3～4 名、集卵施設が 6～7 名、鶏糞処理担当 1 名であり、鶏舎担当が全鶏舎を対象に毎日死亡鶏の確認を行っているとのこと。
- ② 隣接農場も含め系列農場間の従業員の兼務はないとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 衛生管理区域は消石灰帯により区分されているとの説明であったが、調査時には防疫作業と積雪により確認できなかった。

- ② 車両消毒は、当該農場から 200m ほど離れた場所にある、系列 3 農場で共有の消毒ゲートで行っていた。消毒ゲートでは、消毒前後の車両動線が交差していた。
- ③ 従業員は、消毒ゲートを通過し、農場事務所の駐車場に車を止め、事務所で衛生管理区域専用の作業着、長靴、手袋を着用すること。
- ④ 従業員が鶏舎に入る際には、消石灰槽及び踏込み消毒槽で靴を消毒した後、鶏舎内作業用の長靴に履き替えていた。
- ⑤ 鶏舎内の換気は、夏場は東の妻側から入気し西の妻側から排気するトンネル換気を行っているが、冬期は東の妻側の入気口外側にあるルーバーを閉鎖し、平側上部の吸気口からの入気に切り替えているとのことだった。鶏舎内には 2 階壁面上部に 2 段の吸気ダンパーがあり、下段は閉鎖して、上段からのみ吸気していた。
- ⑥ 飼養鶏への給与水は、地下水を塩素消毒して使用していた。
- ⑦ 飼料は各鶏舎横にある閉鎖式の飼料タンクからインラインで給餌されていた。
- ⑧ 鶏卵はバーコンベアで集卵施設に運ばれていた。バーコンベアの鶏舎出口にシャッター等は設置されていなかったが、コンベアの鶏舎外部分は上下と側面が鉄板で覆われていた。
- ⑨ 鶏糞は、ケージ下部に設置された除糞ベルトで舎外に運ばれ、堆肥運搬用トラックに積み込み、農場から 500 メートルほど離れた堆肥化施設へ運ばれるとのこと。堆肥化施設は系列農場で共有しているが、車両は当該農場専用であるとのこと。除糞ベルトからの鶏糞の投入口はベニヤ板で塞がれていた。鶏糞を鶏舎からトラックに排出するためのコンベアは、鶏舎に接する部分では上部・側面ともカバーで覆われていた。
- ⑩ 死亡鶏は鶏舎ごとに毎日集め、蓋つき容器にに入れて、鶏舎外の倉庫に一時保存したあと、農場内トラックで車両消毒ゲートまで運搬し、それぞれの輸送車両に中身だけを引き渡し、系列の化製処理工場に運ぶとのこと。死亡鶏の運搬は、鶏舎作業担当以外の従業員が行っていたとのこと。
- ⑪ 廃棄卵は、毎日回収し、蓋つきのポリバケツにに入れて、農場内に一時保管後、一定量が溜まった時点で輸送車両に容器ごと積み込み、車両とともに消毒後、系列の鶏糞処理施設に搬出し、密閉型のコンポストで堆肥化処理している。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 鶏舎に外部とつながる壁面の破損や扉の隙間は確認されなかった。
- ② 発生鶏舎内では鶏舎北側の壁及び梁付近にネズミのかじり跡やラットサインが散見された。梁の隙間に生きたネズミやネズミの巣が確認された。
- ③ 飼養管理者によると、敷地内ではカラスがよく目撃されるとのこと。カラス対策としてレーザー装置の設置等を行っているとのこと。

(以上)